

「あすへひとこと」(邑楽町老人クラブ連合会・あすへひとこと編集委員会)は、邑楽町在住の
 お年寄りたちの貴重な体験談を、邑楽町あすへひとこと編集委員会が編集・発行したものです。

若い人たちに語り継ぎたい。そして、次の世代に残してほしい貴重な話しをお届けします。

お年寄りたちの貴重な体験談(第十八回)

あすへひとこと



古老からの伝言

光明寺は、石打城の守り寺として数千年の昔に、建てられたといわれている。前にある用水堀は、城の外堀だったという。境内には、弁天様や薬師様が祭られている。北に八王子神社があり、東は全部寺の土地で、古墳がたくさんあった。中でも有名なものは、貝吹山と首塚である。

石打城を攻めたとき、敵軍は、一本木、藤川方面から夜討ちをかけた。同時に正伝寺や光明寺は、敵の間者(スパイ)により放火され、焼け落ちてしまった。敵軍は、その火を目当てに攻め立てたのでとうとう落城し、敵味方共に多数の戦死者が出た。その首を埋葬したのが首塚である。

貝吹山は、古墳群の中で一番高



参考: 中世の邑楽町(細谷清吉著)

在にいたっている。過去帳など皆焼失してしまつて、古いことははっきり分からないが、不思議なことに本尊様だけは金色に輝いている。

光明寺と社氏稲荷神社との関係については、次のように伝えられている。

沖之郷に茂木嘉十さんという人がいた。この人は、社氏稲荷神社の熱心な信者だった。ある夜のこゝと、稲荷様が枕元に現れて、「私は今、光明寺に居候しているが、なんとかして元の社へ帰りたい」と言つたぞうだ。

いきさつは分からないが、稲荷神社にあつた稲荷様が、いつの間にかだれかの手によつて、光明寺へ移されたらしい。曲がりくねつた細い道を、教えられた通りにたどつて行くと、光明寺に着いた。

そして、よく調べてみたら夢の通り本尊様が見つかった。石打の人たちと相談し元来た道を引き返して、無事本尊様を社氏の社へ祭り直したという。その時の書類が今でも残っている。



石打地区の社氏に静かにたたずむ稲荷神社

昭和生まれが多くなつたこのころは、だれもかれも石打城と光明寺の関係など、関心がなくなつてしまつたのかも知れない。実に残念でたまらない。

この話は、古老から聞いたことを私が文章にしたものです。

高年齢者の語り第一集
 「あすへひとこと」(昭和六一年二月一日発行)より
 「古老からの伝言」
 故・國井作良さん(渋沼・十九区)

ひとりごと From editors

▼雨の中でスタートした歴史と伝統のある町民体育祭。今年は新しい種目もあり、選手や役員の皆さんは大変だったと思います。私は町内対抗リレーなどに出場しました。私の地区では、夜の慰労会で選手や役員の人たちが集まるので、よい交流の場となっています。▼来月からはよいよ冬に突入します。寒い季節に欠かせないアイテムは、何と言ってもコタツです。コタツに入って、みかんやせんべい、鍋料理などを食べながらテレビを見るというのが思い浮かびますよね。でも、暖かいからといってコタツに入って寝てしまう人も多いのではないのでしょうか。コタツに入っていると、水分を奪われ運動不足になりがちなので、適度な水分補給と運動をオススメします。(藤)



Photo 広報担当

まのちの風景

一面に咲く
 そばの花
 (狸塚地区)



広報おうら

ORA TOWN Public Relations



平成24年11月号 No.554

毎月1日発行

編集・発行 邑楽町役場企画課

〒370-0692 (住所記入不要)

☎ 0276-88-5511 (代表)

☎ 0276-47-5007 (企画課直通)

☎ 0276-89-0136

URL <http://www.town.ora.gunma.jp>

E-mail koho@town.ora.gunma.jp

邑楽町携帯サイト

2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご入力ください。

携帯用URL <http://www.town.ora.gunma.jp/k>

